※社名横のQRコードでそれぞれのPRサイトにアクセスできます

全日本葬祭業協同組合連合会（東京都港区）

タレントの田村淳さんがフューネラルアンバサダーに就任
石井時明会長との対談をWeb動画で公開

全日本葬祭業協同組合連合会（本部東京都港区、会長石井時明氏、以下、全葬連）は、タレントの田村淳さんを全葬連フューネラルアンバサダーに迎え、2020年８月に他界した母・久仁子さんの葬儀を機に、新しい葬儀のあり方や人の死への向き合い方などをあらためて考え直し、当時の想いやエピソードについて語ったWeb動画を５月14日（日）の「母の日」から公開している。

Web動画では、田村淳さんが新しい葬儀への考え方などをテーマに全葬連石井会長との対談の様子を収めている。田村さんが体験した自身のエピソードをもとに、新しい考えを得ることができ、「別れ」について考えるきっかけとなる動画である。20年に他界した久仁子さんが自身の葬儀をプロデュースされたことについても語っており、「僕は死に方とか仕舞い方は人それぞれでいいと思っている。ウチの母ちゃんの例を見習いたいという人がいれば真似すればいいし、いや私は私の死に方、生き方があるんだと、それが当然あってもいい」「でも僕は残された側としてめちゃめちゃ母の愛を感じました」と語っている。

がんのため72歳で死去した田村淳さんの母・久仁子さんは、久仁子さんが生前に自身の葬儀に出てもらうお坊さんの選出や、参列者に振る舞うお弁当の指定、さらには葬儀中に流すBGMまで、細やかに遺言に記していた。実際にとり行なわれた葬儀では、通常は花を柩に納める儀式も、久仁子さんが花粉が苦手という理由で行なわず、代わりに家族の想い出の写真が入ったポチ袋を参列者に配布し、その写真を納めることにした話を披瀝している。

出棺時には田村淳さんが出演していたNHK大河ドラマ『功名が辻』（06年）の主題歌を流すなどの演出が盛り込まれ、これまでの葬儀という印象をあまり感じない温かい雰囲気のまま終了した。

田村さんはこのときの葬儀について、「泣いたし笑ったしの繰り返しで、だけどこれが久仁子がやってほしかったことなので、そこはすごく満足感がありました。ちゃんと見送れたなと」と語っている。

田村さんは遺書についても語っている。「遺書ってすごく忌み嫌ってしまうんだけど、書いてみたら、めちゃめちゃモチベーションが上がるんです。娘のために遺書を書いていたのに、自分にすごく跳ね返ってくる。なぜなら死ぬ気にならないと書けないから。死ぬ気になって書いたものに自分がどう生きたいかや、どうありたいかが明確に示されるので、モチベーションがグッと上がったんです」とコメント。さらに、「これを大事に生きていかないといけないじゃないか、これが大切なことなんだと再確認できたので、だから遺書ってみんな書けばいいじゃないかと思ったんです」と語っている。

「遺書を書いて気づいたことは、相手のために言葉を紡いでいたのが、いつの間にか自分と向き合う時間がすごくたくさんあって、死ぬ気で書いて出てきた言葉で、自分がやりたいこととか、自分が人生で進みたい方向とかが明確になった。そして書き終わったときにはポジティブになっていて、これだけは一度トライしてもらわないと遺書のイメージが変わらないので、淳がそんなに言うならと、軽い気持ちでトライしてもらえると、いろんな気づきが書いた人のなかに湧き上がるんじゃないかと思います」

田村さんは、故人が心残りをしないために、生前にどういう葬儀にしたいかなどの話をするタイミングについて、「うちの母ちゃんは“誕生日”をそういう日に使っていました。生まれた日なんだから死ぬことを意識する日」と久仁子さんから話された体験をコメント。この言葉を受け取った田村さんは、「ちゃんと生と死がセットで考えさせてくれたなと思います。それは、やっぱり看護師だったからだと思います。いろんな人の死を見てきたので、あんな別れ方したくないとかよく言ってたんです」と、看護師ならではの死生観があったことがうかがわれる。

「母ちゃんの葬儀で、葬儀のイメージががらりと変わりました。やられた、笑わされた、泣かされたなど、いろんな仕掛けがあって、これは人生で最後に自分がどういう人間だったかを示すために物凄く意味のあるものでした。ただ別れを惜しむだけではなく、私はこの世を去るけれど、生きているあなたたちにはこんな気持ちで生きていってほしい、というのが葬儀を通じて伝わってきました」

およそ12分のWeb動画は、Afterコロナに向かういま、あらためて葬儀の大切さを再認識するきっかけになろう。

TEL●03-5769-8701　FAX●03-5769-8702

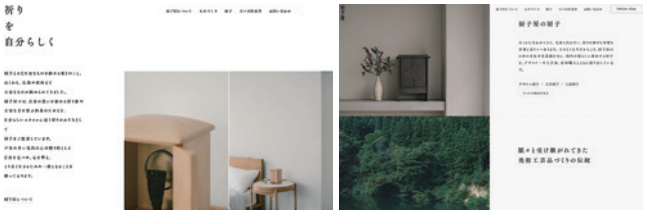
アルテマイスター・㈱保志（福島県会津若松市）

「厨子屋」開設20周年を機に Webサイトをリニューアルオープン

仏壇・仏具・位牌の製造販売を手がけるアルテマイスター・㈱保志（本社福島県会津若松市、社長保志康徳氏）は、これからの祈りのかたちを提唱する「厨子屋」のWebサイトを全面リニューアルした。

同社は、“豊かな心を創る”という理念を掲げ、供養や暮らし、祈りという人の「心」の領域に関わる製品・サービスを提供している。1900（明治33）年の創業時から、仏壇・仏具・位牌の製造販売を行なっているが、近年の生活環境の変化（住環境、核家族化）により、自宅での祈りの場がかつての日本と大きく様変わりしている状況を鑑み、2002年に東京・銀座に「ギャラリー厨子屋」を開廊、１人ひとりの心に寄り添う、大切なものを納める現代の祈り箱「厨子」を提案している。

開設から20年、多様性を重視する時代となったことから、さまざまな方々に厨子や仏様、祈りの調度品をご覧いただき、時代に合った供養・祈りの場を提案するサイトとして、リニューアルを実施。



普段の暮らしのなかに、厨子を置いたイメージをもっていただけるよう、さまざまな使用シーンの画像を掲載するほか、厨子を製作している会津の風景や工房、職人のインタビュー記事を新設。仏壇の製造技術から生まれる厨子、ものづくりの様子と職人の想いにふれることができる。

また、オンラインショップと連動し、一部の製品がオンラインでも購入可能になった。

TEL●03-3538-5118　URL●https://zushiya.com/

「葬儀の口コミ」（株式会社ディライト）

掲載料無料の葬儀社紹介サイト「葬儀の口コミ」

「葬儀の口コミ」3つの特徴

① 完全成果報酬型【初期費用・月額費用なし】
② 自社プランで施行できる【プランの指定なし】
③ 喪主と直接話せる【オペレーターなし】

現在約500社の葬儀社様に賛同していただいています。

葬儀をインターネットで探すことが主流になった今
ネット集客を「**無料**」で始めてみませんか？？

詳しい資料はこちらのQRコードからお問合せください